

表4

＜3歳・5歳児保護者＞ご家庭でお子さんに絵本の読み聞かせをしていますか？

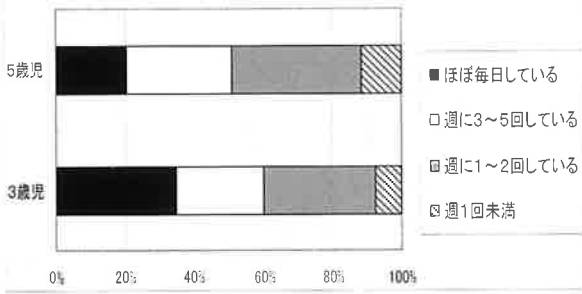
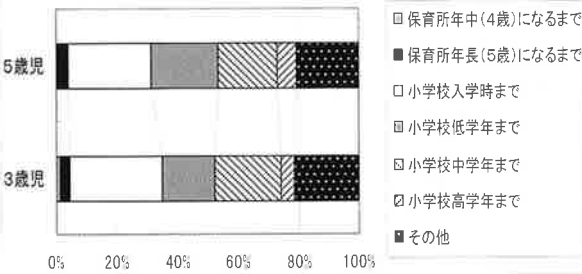


表5

＜3歳・5歳児保護者＞お子さんへの絵本の読み聞かせは何歳くらいまで必要だと思いますか？



▶ 赤ちゃんの頃から読み聞かせ

3歳・5歳児の保護者に対する「家庭での読み聞かせ」についての質問(表4)では、週に1・2回以上読み聞かせをしている家庭が約9割を占めています。「読み聞かせは何歳くらいまで必要だと思いますか？」という質問(表5)では、「小学校入学まで」という回答が一番多くなっています。一方で「その

他」と答えた保護者の多くは「読んで欲しい間は、いつまでも読んでやりたい」と回答しており、自主的な読書が始まるまでは子どもに寄り添う姿勢が多く見られます。読み聞かせの浸透とともに、家庭での取り組みも徐々に高まっていることがうかがえます。

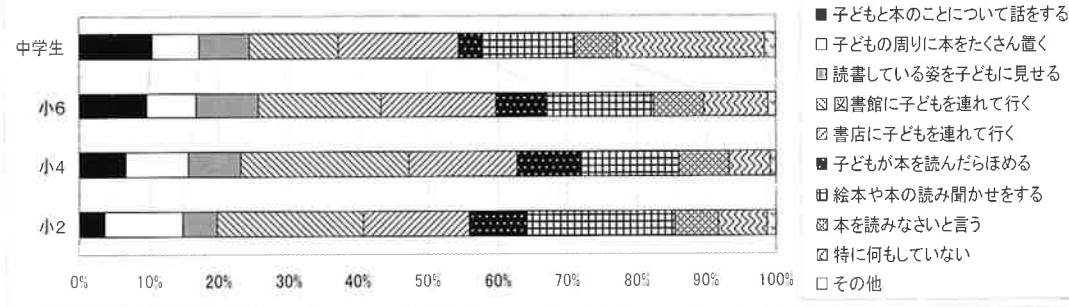
保護者に対する『お子さんの読書をすすめるためにしてきたことは、なんですか？』という質問(表6)では「子どもを図書館へ連れて行く」「読み聞かせをする」「子どもと本のことを置く」「子どもと本のことについて話をする」など、子どもの年齢に応じて、いろいろな働きかけをしている家庭が多いことが分かりました。

# 広がる 絵本の読み聞かせ

# 読書をすすめる 家庭での働きかけ

表6

＜学校保護者＞お子さんの読書をすすめるためにしてきたことは、なんですか？



本のある暮らしを  
習慣づけるために

調査結果から、小・中学校、保育所、図書館など関係機関の様々な取り組みや3年間の文部科学省委託事業によって、家庭での絵本の読み聞かせは確実に広がり、大山町の子どもたちが本に親しみながら成長している様子が見えられます。一方で、子どもがより手に取りやすい身近なところに本がある環境を、大人が工夫して必要を感じます。

子どもの生活の基本は『家庭』です。本のある暮らしを子ども時代に習慣づけるには、家族が温かく寄り添い働きかけることが欠かせません。子どもの心を育む読書の芽を、しっかりと見守り育てるために、大人が協力して取り組みを進めていきたいと思えます。

アンケート結果の詳細は、図書館で閲覧できます。図書館ホームページにも掲載しています。